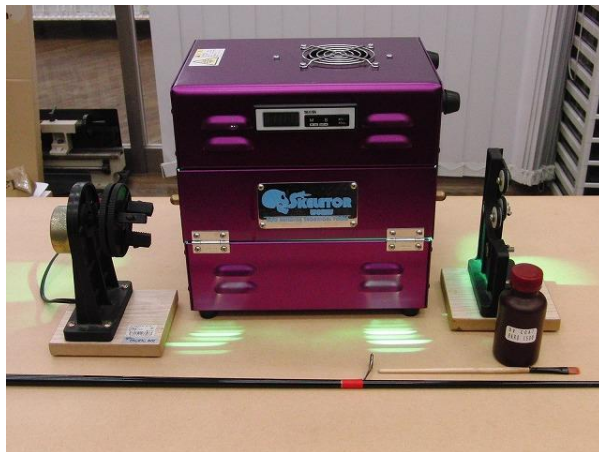


# 紫外線照射機 UVハードナー

「UVハードナー」は、紫外線を照射することで硬化する、特殊な液体を使用することで、短時間でコーティング作業を処理することのできる機械です。強力な紫外線を発するため、**ゴーグルなしで光を直視したり、紫外線によるアレルギーをお持ちの方は使用を避けてください。**



## 「UVハードナー」使用方法

### 1. 本体後ろにある電源スイッチを入れます

まずこの時**専用のゴーグル**をしてください。紫外線から目を守るもので、これをしないでランプを直視しますと、目の痛みや視力低下の恐れがあります。また、カバーは必要のないときは必ず閉じるようにしてください。

UVランプは完全に明るくなるまでに数分かかりますので、コーティング剤を塗る前に電源を入れておき、ランプを温めておいてください。



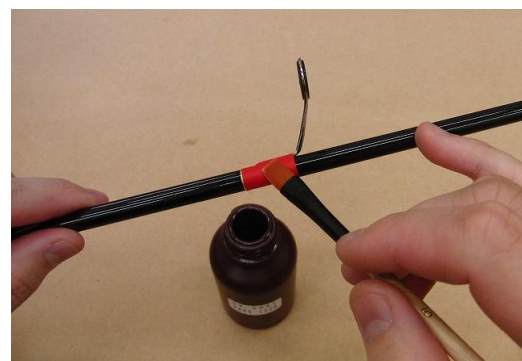
### 2. 専用のコーティング剤を塗ります

エポキシコーティングと同様、塗布したのちアルコールランプで炙ることで液が軟化し、スレッドに染み込みやすくなります。一回目の塗りでは薄く塗ったほうが失敗しにくいです。目安としては、スレッドの糸目が均等に出ていることや、ロッドを回転させなくても、コーティング剤が垂れない程度がいいです。

※**アルコールランプの使用には十分気を付けてください。炙りすぎは引火の原因になります。また、ランプを振りすぎますと、ランプの口からアルコールが漏れることがあります。万一漏れた場合、一瞬で引火するため非常に危険です。振りすぎには注意してください。**

また、アルコールは使用するときのみ火をつけ、それ以外は必ず消すようにしてください。

筆や、コーティング剤の入った容器を絶対にランプの光をあてないようにしてください。万一あたりますと一瞬で固まってしまい使用できなくなります。



### 3. UV ハードナーに入れます

必ずUVハードナーの蓋を開けるときにはゴーグルをつけていることを再度確認してください。

UVハードナーに入れるまでは必ずロッドを手で回しておきます。こうしないと不意に止めたときにコーティング剤が垂れてしまうからです。垂れたままUVを照射するとそのまま固まってしまいます。

蓋を開けてロッドを入れて5~10秒ほど回しながらUVを照射します。その後一度機械から出して形がおかしくないか確認します。この時点では完全に固まっていませんが、垂れることはありません。



### 4. 2回目のコーティングをします

「3」の状態からコーティングを重ねていきます。

2回目で表面の糸目がある程度なくなる程度で処理します。2回目以降はかなり液が垂れやすくなるため、UVハードナーに入れるまでは常にロッドを回転させている必要があります。ガイドのサイズによって、または使用する人のスキルや好みによっては2回目で仕上げの形にもっていてもかまいません。形が整ったらUVを5~10秒照射して固めます。

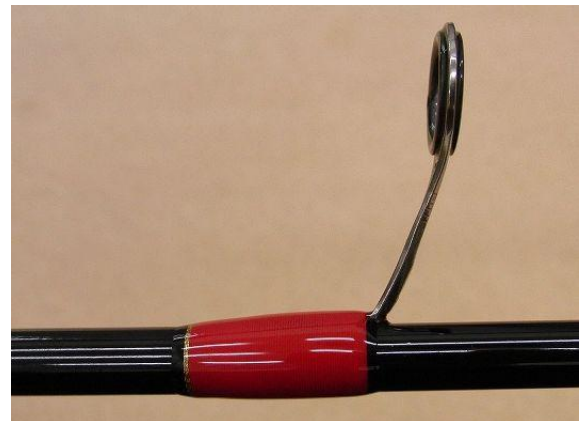


### 5. 仕上げのコーティングをします

仕上げのコーティングでは若干多めに液を乗せ、アルコールランプで炙り、液が垂れるのを筆で下からとりながら形を整えるようにすると綺麗に仕上がります。筆だけで形を整えようとすると、なかなかうまくいきません。うまくやると液が自然に綺麗な形になってくれますので、そのコツをつかむようにしましょう。

仕上げの塗りでは一番液が垂れやすくなり、また最終のコーティングとなる為、形を整えつつロッドをしっかり回転させて調整します。形がきれいになった瞬間にUVハードナーに

入れて液を固めてしまいます。1回目2回目同様5~10秒ほど回しながら照射させることで、垂れることのない状態まで固めることができます。この時点で形がしっかり整っていることを確認してください。万一整っていない場合はさらに塗って修正するか、一度固めてからやすり等で削って調整することになります。それでもうまくいかない場合はスレッドを巻き直す必要があります。



## 6. UV ハードナーで完全に硬化させます

「5」でしっかり形が整ったことを確認できたら、UV をしっかり照射して完全に硬化させます。1 分おきくらいに角度を 45 度くらいずらしながら固めてもいいですが、モーターを使用すること手放しで処理することができます。

モーターのチャックにロッドをしっかりと固定します。この時、EVA やコルクなど比較的柔らかい素材のものを挟む場合は、紙やマスキングテープなどを巻いて保護するとよいでしょう。



UV ハードナーは中心が一番硬化促進されます。その為必ずケースの中心にガイドが来るようにセットします。

蓋を閉め、モーターのスイッチを入れます。あとは 10 分程度放置することでコーティング剤は完全に硬化します。ただ、UV ハードナーのランプの状態によっては、それより早く固まることもあれば、もう少し時間をかけないと固まらない場合があります。15 分たっても硬化不良を起こすようでしたら、スタッフまでお声掛けください。硬化の目安として、指触してまったくべたつきや濡れた感じがしない状態がベストとなります。少しでも濡れている感じがしたら追加で数分間照射してください。

モーターの受けはある程度高さの調整をすることができますが、一番低く

しても UV ハードナーの入り口に当たってしまうことがあります。このままではロッドに傷がつきますので、UV ハードナーの下に木の板などを引いて高さを調整するようにしてください。

モーターへのセットが完了したら、タイマーを「10」分でセットして待ちます。10 分経ってケースから取り出したのち、1 分ほど冷やしてからコーティング箇所を触ってみてください。成功していれば、まったくべたつきの無い硬い塗膜で処理されているはずです。

